

イチジクさび病

英名: Rust

病原: *Phakopsora nishidana* (担子菌類)



葉の症状



被害樹の症状

生態と防除

発症部位 : 葉

発生の経過 : 1. 伝染源 … 土壌中や空気中に常に存在している。
2. 発生消長 … 葉の裏面に黄褐色の小さな斑点ができ、やがて淡黄色粉状の胞子ができる。胞子は風などによって飛散し二次感染する。病斑を多数生じると早期落葉を引き起こし、激発樹では結果枝先端の若葉のみを残して下部の葉がすべて落葉する。このような樹では、果実は落下しないが肥大が悪くなる。また、次年度の結果枝の生育に悪影響をおよぼすと思われる。

発生しやすい条件 : 発病適温は25～30℃であるが、雨が多く夏涼しいと激発する。

防除 : 被害落葉を冬季に処分する。